



国際シンポジウム スリランカの障害児の教育的包摂:低・中所得国への示唆

スリランカの早期療育・障害分野:政府社会サービスセクターによるサービスの過去30年をふりかえる

日時

2023年10月20日
17:30 ~ 19:30 (日本時間)

開催方法

オンライン【Zoom meeting】

申し込み方法

Googleフォーム

■ 申込締切: 2023年10月17日17時

⇒ 申込みはこちらから

〈URL〉

<https://forms.gle/r59ahcu56LMXkp1d7>

- ◆ 本シンポジウムは録画の上で実施する場合があります。ご了承ください。
- ◆ 申し込みいただいた個人情報はアンケートにのみ使用させていただきます。

スピーカー

リーラ・グナシンハ

スリランカ中央政府社会事業局
チャイルドガイダンスセンター (CGC)

コメンテーター 1

渡邊そのみ

ノーサイド甲府教室

コメンテーター 2

スラニ・ナッカウィタ

元CGCスタッフ: 在米国

コメンテーター 3

古田 弘子

熊本大学

※お申し込みいただいた方で希望者には、後日、録画を配信します。
当日ご参加になれない方もお申し込みいただけます。

国際シンポジウム スリランカの障害児の教育的包摂：低・中所得国への示唆

スリランカの早期療育：政府社会サービスセクターによるサービスの過去30年をふりかえる

【背景】

1994年のサラマンカ声明、2006年の国連障害者権利条約の採択以降、インクルーシブ教育を志向することがスタンダードとなっています。しかし、多くの低・中所得国では、それまで大多数が教育から排除されていた障害のある子どもを、発見し、評価し、1人1人に適した教育的サービスにつなげていくシステムづくりは簡単なことではありません。

スリランカでは、1990年代半ばに中央政府の社会事業局に派遣された青年海外協力隊員のカウンターパートとして日本で研修を受けた職員が、その後早期療育機関チャイルドガイダンスセンター（CGC）を開設し、本分野におけるパイオニアとしての役割を果たしてきました。本年度で退職するその職員、リーラ・グナシンハ所長のCGCでの歩みを振り返ることで、低・中所得国における障害のある子どもの早期療育のシステムづくりについて考えます。

スリランカの障害児療育にはこれまで日本の海外協力隊員が多くかかわってきましたが、今回のシンポジウムにも3人の元隊員が登壇します。

【日時】 2023年10月20日（金）17:30～19:30（日本時間）

【会場】 オンラインシンポジウム（Zoom meeting）

【使用言語】 英語

【参加費】 無料 ※申込みメ切：2023年10月17日（火）17:00 100人になり次第締め切り

【申込方法】 Googleフォーム：裏面参照

※お申込みいただいた方にミーティングIDをお伝えします。

※申込みがうまくいかない場合は下記にお問い合わせください。

iesymp2022@gmail.com

- 司 会 松本なるみ（東京家政大学）
東田全央（淑徳大学）
- シンポジスト スピーカー リーラ・グナシンハ（スリランカ、CGC所長）
（録画）
コメンテーター① スラニ・ナカウィタ（言語聴覚士 米国）
コメンテーター② 渡邊そのみ（ノーサイド甲府教室）
コメンテーター③ 古田弘子（熊本大学）
- 主 催 熊本大学大学院教育学研究科 古田弘子
淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 東田全央

- 後 援 JSPS科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）(21KK0039)
スリランカにおける障害児の教育的包摂：社会的文脈に即した包摂モデル
の構築に向けて
<https://www.educational-inclusion-sri-lanka.com/>